

トップ インタビュー

保健医療行政の課題と情報システムの役割 —千葉県保健衛生部星野部長に聞く—

千葉県保健衛生部では、積極的に情報通信技術を取り入れ高齢化社会に向けた保健医療行政の高度化を進めている。今回は、その指揮をとる保健衛生部星野部長に、その意義やねらいについて伺いました。

—保健医療行政の昨今の課題について伺いたいのですが。

全国の自治体では、高齢化に対する在宅介護や在宅医療が大きな問題となっています。また、阪神大震災を経験した今、災害時対策も重要な課題です。そのための体制をいかに整備し、そして行政サービスの支援のためいかに情報通信技術を活用していくかということに、システム構築の意義目的があります。



聞き手 山崎準一
情報処理学会誌編集委員

—今回、千葉市の保健医療行政に関わるおもな機関がネットワークで接続されたわけですが、その役割はどういった点にあるのでしょうか。

私ども保健医療行政に携わる立場から申し上げますと、将来的には情報ネットワークは、今後ますます必要になってくる在宅医療において、医療機関等の関連機関へのアクセス手段として欠かせないものになるでしょう。また、災害時においても医療機関や保健所、消防署などの連絡や連携など緊急医療への対応に活用されると考えています。今回は、まず、おもな医療機関をつないで、将来に向けてのネットワーク・インフラを整備しました。インフラができていれば、国の医療政策に対応して、さらにネットワークを広げることが可能です。

—行政機関で情報システムを活用していく上で、特有の課題がありますか。

情報システムによって業務内容をプログラム化することは、仕事をシステムティックにしている考え方だと思います。システムの正確性、機能が高くなればなるほどトラブルやミスの影響は大きくなります。たとえば、健康診断の結果、「適合」が「不適合」と印刷されてしまうようなプログラムミスの影響は甚大です。こうした点では、かなり神経を使っています。それから個人情報の保護も重要な問題です。職員に対する教育も必要となります。しかし、職員をがんじがらめにしげらげらず柔軟に情報を活用する環境を提供しなが

ら、意識を高めることが必要だと考えています。

—最後に、情報化社会に向かって今後の計画やお考えを聞かせてください。



話し手 星野忠雄氏
千葉県環境衛生局保健衛生部長

市立病院との接続はこれからですが、関連機関との連携は今後も進めます。それによってアクセスが増大すればシステムのキャパシティも拡大していく所存です。次の段階ではICカードに個人情報を蓄えることを検討していきます。災害時にもICカードを活用することで医療機関が正確に情報を伝達・把握することに役立つものと期待しています。今は、1年間に500万台もパソコンが普及される時代です。総合的な情報が家庭生活に役立つかたちで流通する仕組みを整えれば、市民生活はもっと豊かになるものと期待しています。

(平成7年10月実施)